



第8回 国立病院看護研究学会学術集会

INFORMATION MAGAZINE THE JOURNAL

ザ+ジャーナル!!

Vol.5
No.4

National Hospital Organization Okayama Medical Center

やさしさ便り～岡山医療センターの今

CONTENTS

特集 リハビリテーション科

- 2 リハビリテーション科の紹介
- 4 センター NEWS
- 8 看護学校通信
- コラム 接遇について
- 9 健康レシピ
- リソースナース室通信
- 10 地域医療連携室 連携診療施設紹介
- 健康ワンポイントレクチャー
- 11 コラム お荷物ドクターのひとりごと
- 12 TOPICS!
- 第4回 がん市民公開講座
- 編集後記

地域医療支援病院
がん診療連携拠点病院

岡山医療センターの理念

人にやさしい病院 をめざして
-Human Friendly Hospital-

- 1 患者さまにやさしい病院を目指します
- 2 病院で働く人にやさしい病院を目指します
- 3 地域の人にやさしい病院を目指します

リハビリテーション科の紹介

リハビリテーション科医長 大森 信彦

皆さんは、「リハビリ」という言葉に、どのようなものを連想するでしょうか?リハビリテーションの語源は、ラテン語の「re(再び)+habilis(適した)」、すなわち「再び適した状態になること」「本来あるべき状態への回復」などを表しています。私たちリハビリテーション科スタッフは、病気で本来あるべき姿を失った方々が、病気と付き合いながら再び日常生活に適した状態に戻っていくのをサポートする、いわばスパルタ家庭教師のような存在です。生徒にやる気がなければなかなか成果が表れませんが、やる気を引き出すのも教師の役目。患者さんとのコミュニケーションと相互信頼が大切なのは言うまでもありません。世界一の高齢化社会となりつつある日本では、ますますリハビリの重要性が注目されてきています。急性期病院として、当院のリハリストaffがどのような取り組みをしているのか、当院リハビリの特徴は何なのかをご紹介します、リハビリテーション科の「心意気」をお伝えしたいと思います。

注:当院では、心臓リハビリ以外は入院患者様のみを対象としています。一般外来患者様に対する通院リハビリは行っておりませんので、ご了承ください。

心大血管リハビリテーション部門

医師 西崎 真里

心疾患患者様のリハビリテーションとはどのようなことをするのですか?患者様だけでなく医療スタッフでもこのような疑問をもたれている方は多く、リハビリについてまだまだ認識されていないのが実情です。効果としては①日常生活動作(ADL)拡大・生活の質(QOL)の向上、②生命予後の改善があります。つまり今だけでなく将来の自分のためにリハビリが有効であるのです。そのために、運動療法だけでなく、冠危険因子(心臓を栄養している血管の病気ができやすくなる要因)のコントロールや日常生活指導など、包括的リハビリテーションを多職種が協力して行っています。今後は当院の特色である、肺高血圧症患者様のリハビリテーションの充実や、急性心筋梗塞後連携パスの作成などに取り組んでいきたいと考えております。

救急蘇生法指導の取り組み

理学療法士 末澤 典子

当科では心臓リハビリテーションに参加された冠動脈疾患の患者様と家族様に対して、救急蘇生法の指導を行っております。実施にあたっては、人形やAED*1を実際を使って指導しており、参加者の皆さんも実践ながらの内容に興味を持って取り組んでいただいているようです。私自身BLS*2インストラクターの資格を取得し、より分かりやすく・楽しい講義を心がけております。これからも患者様や家族様が救急蘇生法の知識・技術を少しでも身につけて頂けるよう取り組んでいきたいと思っております。



- *1:AED(自動体外式除細動器)とは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態(心室細動)になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器。
- *2:BLSとは、Basic Life Support(一次救命処置)の略称。急に倒れたり、窒息を起こした人に対して、その場に居合わせた人が、救急隊や医師に引継ぐまでの間に行う応急手当をさす。



理学療法部門

運動療法主任 日浦 雅則

理学療法とは、機能・形態障害を有する患者さまに対して運動療法や物理療法を用いて、筋力、関節可動域、協調性といった運動機能の改善を図る治療法です。理学療法の直接的な目的は運動機能の回復にありますが、日常生活動作の改善を図り、QOL(生活の質)の向上を最大の目標としています。対象疾患は、運動器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、呼吸器疾患と様々ですが、当科では運動器疾患が約5割と最も多く、次いで心大血管疾患、脳血管疾患が約2割となっています(21年度依

頼件数)。リハビリ開始時期については、発症または手術直後から介入し、早期離床、廃用・合併症予防に取り組んでいます。心大血管リハビリについては、中四国管内有数の中でも早期から開設している部門であり、研究・学会発表を積極的に行っています。

作業療法部門

作業療法士 横内 圭吾

作業療法とは、心身に障害が生じた患者様に対し、作業を通じて家庭・社会へ復帰を促していく、診療補助の役割を担っています。作業とは、手工芸など細かな活動以外にも食事・着替えなど日常生活で行う活動訓練や職業復帰へ向けた職業関連活動訓練、福祉用具の使用などに関する訓練、認知症・脳卒中後の高次脳機能障害(例：集中力が持続しない、記憶があいまい、など)に対する訓練など多彩な方面で治療を行います。

平成22年度(4月～12月)での作業療法対象疾患の内訳は、脳卒中が約6割、整形疾患が約3割になります。

当院では平成21年度よりリハビリテーション科に作業療法部門が開設され、現在作業療法士常勤一名で対応しております。

当院作業療法の特色として、発症直後より作業療法介入する場面が多く、理学療法士とともにベッドからの早期離床・寝返りなどの基本動作訓練等も行っております。脳卒中発症の患者様で利き手に障害を持つ場合は早期より利き手交換訓練・麻痺した手の機能回復訓練を行っています。また、人工関節の術後の患者様に対し、靴下の履き方など生活指導も行っています。

生活動作で困っている点などございましたらお気軽に声をかけていただければ幸いです。

言語聴覚療法部門

言語聴覚士 阿部 直美

近年、言語聴覚療法においては高度専門職として認定言語聴覚士(摂食嚥下障害領域・失語高次脳機能障害領域)養成の取り組みが拡充しています。その流れの中で当院では、年間約400例の患者さまとお会いしていますが、その7割は摂食嚥下障害です。残りの2割が失語・構音・高次脳機能障害、1割が小児発達障害となっています。特に摂食嚥下障害に対しては、医師・看護師・栄養士・放射線技師と協力し



嚥下造影検査

て嚥下造影検査(VF)・嚥下内視鏡検査(VE)を導入し嚥下障害の客観的評価を積極的に行なっています。失語・構音・高次脳機能障害に対しては有効なコミュニケーション手段を活用し改善に努めています。小児発達障害では評価が中心となりその後のフォローアップ体制を整えることが今後の課題となっています。これからもコミュニケーションのプロ(?)として患者さま・スタッフのみなさんとしっかりコミュニケーションをとっていききたいと思います。

て嚥下造影検査(VF)・嚥下内視鏡検査(VE)を導入し嚥下障害の客観的評価を積極的に行なっています。失語・構音・高次脳機能障害に対しては有効なコミュニケーション手段を活用し改善に努めています。小児発達障害では評価が中心となりその後のフォローアップ体制を整えることが今後の課題となっています。これからもコミュニケーションのプロ(?)として患者さま・スタッフのみなさんとしっかりコミュニケーションをとっていききたいと思います。

現状と今後の展望

現在、様々な診療科から多くの依頼をいただき、あらゆる疾患に対応している状況です。また患者さまは多くの合併症を有しており、リハビリにおいても多角的な評価と治療が必要となっています。リハビリの診療報酬体系は疾患別になっており、運動器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、呼吸器疾患の4疾患に定められています。しかし、本来リハビリは疾患が対象ではなく疾患から派生する障害や、その状態である患者さまが対象となるべきだと考えています。当科スタッフはこのような理念の下、多角的かつ総合的なアプローチを行えるように取り組んでいきたいと思っています。臨床業務以外の活動として学会発表や院外研修会の参加、リハビリ科勉強会などを行い、スキルアップに努めています。

近年、包括的リハビリテーションという概念が標準化しており、その内容は運動療法のみではなく、患者教育、生活指導、カウンセリングも含まれるとされています。私たちも主治医、看護師、薬剤師、栄養士、MSWなど多職種と連携し、充実した包括的リハビリテーションを提供することにより、大きな改善効果が期待されると考えています。今後も



皆様のご支援ご協力をいただき、リハビリテーション科を発展させていきたいと思っています。

(日浦 記)

リハビリテーション科 職員

S T A F F

医 長	大森 信彦	医 師	西崎 真里
運動療法主任	日浦 雅則		
理学療法士	渡利 太・今泉 正樹・吉田 英樹		
	安藤 可織・末澤 典子・大石橋朋子		
	田邊 良平・中山 知香		
作業療法士	横内 圭吾		
言語聴覚士	阿部 直美・川越 沙織		



第8回 国立病院看護研究学会学術集会を開催して ■看護部長 三浦 麗子

「看護の知の再発見と創造」をメインテーマに、平成22年12月18日(土)岡山コンベンションセンターで、第8回国立病院看護研究学会学術集会を開催しました。平成21年8月にこの学術集会の学会長を指名されて以来、看護部、事務部職員、看護学校の力を結集し、当日を迎えました。

特別講演は、聖路加看護大学学長の井部俊子先生の「学習する組織をつくろう」です。組織の文化を変えたり、人材の育成を図るには、経験や周囲の人との相互関係の中で学習できる“場”を意図的に設定することが必要であることの示唆をいただきました。教育講演は岡山大学病院の足羽孝子先生です。より質の高い周術期管理に向けた多職種連携のチーム医療の中で、看護師が本来持っている知の機能を発揮している姿を紹介され、知的な刺激をいただきました。私は、会長講演の“場”をチャンスに「臨床看護師の持つ看護の知を考える」というテーマで、岡山医療センターの看護師の成長していく姿を、事例と理論を組み合わせて紹介させていただきました。

シンポジウムは、「自立した看護職の育成を目指した臨床と学校の連携」での議論です。当院名誉院長の青山興司先生にもシンポジストで登壇していただきました。皆様のご想像通り、会場は“青山ワールド”に引き込まれ、楽しく且つ知的なひとときを過ごすことができました。

今回は、当初の予想を上回り1251人の方に参加していただきました。参加者からは、今までにない学会で感動した。運営をしている岡山医療センターの職員の暖かさを実感した等の“賞賛のシャワー”をいただきました。運営メンバー同、充実感と心地よい疲労感を味わった一日でした。今回裏方の最大の功労者の一人に事務部の近藤さんの存在があります。彼のデザインによる学会ポスターはメインテーマのイメージにフィットし、準備段階から当日までのモチベーションを維持し、当日の学会を盛り上げる最大の貢献をしました。

この学会は、第65回国病学会の成功に向けてプレ体験もできた有意義な学会でした。ご支援をいただいた皆様に、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

今年の国病学会に向けてさらに“チャレンジそしてチェンジ!”



岡山医療センター国際医療協力チーム NGOジャパンハート支援 カンボジア～ミャンマー・手術ミッションー 途上国の子どもを救うー

■国際医療協力室・外科 臼井 由行

その1
カンボジア編

カンボジア・ミッション

お正月気分もやっと抜けた1月9日、関空から飛び立った岡山医療センターチームは、翌朝にカンボジアの首都プノンペンに降り立ちました。

そこは日本の1月とは別世界の、灼熱の気温30度。きらきらとした日差しとNGOジャパンハートの吉岡秀人先生チームの皆さんに迎えられました。

吉岡秀人先生は、途上国の子どもを救う国際医療チームの代表、そして国立岡山病院出身でもいらっしゃいます。当院名誉院長の青山先生の直弟子であります。青山先生のもとで小児外科を1997年より2003年まで研修された後、2004年にNGO「ジャパンハート」(日本人による国際医療チーム)をミャンマーにて立ち上げられました。

今ではミャンマー中部ザガイン地区のワッチェ村で日本人スタッフによる無償の医療援助を始めて7年。2008年からはミャンマーに加えてカンボジアでも医療活動を開始されています。その活動は毎日放送(MBS)テレビの“情熱大陸”(日曜夜23:00～)などマスコミに何度も紹介されて有名です。

岡山医療センターではこれまでに2度、NGO「ジャパンハート」と協力してミャンマーの子どもたちを当院に迎えて手術し、無事成功した実績もあります。

今回は甲状腺と小児外科の手術のため、岡山からカンボジアとミャンマーに手術チームを派遣することになりました。また、そのうち手術後のお一人を特殊な治療のため、後日当院に迎えるスケジュールです。

結成された国際医療協力チームは、青山名誉院長先生を団長として、小児外科の中原康雄、浅井武、小児科の藤原香緒里、石川真紀子、外科の臼井由行の医師団と、手術室看護師の松村加奈子の7名です。希望と誇りを胸に関空から飛び立った私たちでした。



関西空港に集合。チーム七名とジャパンハートの石田先生(左端)

しかし、想像をはるかに超えるハードなスケジュールで、2か国5日間の滞在での手術は24件! 帰国後にチームメンバー全員が不本意にも多かれ少なかれ体調を崩してしまいました。

カンボジア到着、すぐに手術。

1月9日深夜に関西空港を離日。バンコク経由で、カンボジアのプノンペン空港に到着したのは翌日10日の早朝。赤道直下の日差しになじめないまま車で90分かけて郊外のプレイベン州のピエリヤン病院に到着しました。街路樹は椰子やバナナの木が連なり、ブーゲンビリアの赤紫の花に心が癒されながら、道路は簡易舗装のため赤茶色の砂が舞っていました。昼食もそこそこにすぐに3件の手術を行いました。待たなしです。

宿泊先は、病院前のNGO「ジャパンハート」の簡素な宿舎でした。日本では今や見かけない蚊帳を張り、日本では味わえないせんべい布団に驚きながらも疲労感のせいかすぐに熟睡していました。



カンボジア ピエリヤン病院

敷地内に平屋の小さな病棟が連なる。フランス領の面影が残っています。

2日目。1月11日。ニワトリと小鳥の声で目が覚めました。またすぐ病院に。午前、午後合わせて3件の手術です。そのうち1件は大手術でした。13歳の可憐なソカちゃんの甲状腺腫瘍の手術は7時間近くかかり、不便な手術室の設備にスタッフ一同心身ともに疲弊しました。と同時に、カンボジアの質素な施設でも日本と同じ医療を施せた私たちは安堵と達成感を味わっていました。





NGO「ジャパンハート」のメンバーとの夕食
1日目終了、ひと時の休息。吉岡先生(右端)、青山団長(中央)。



宿舎での朝食
NGO「ジャパンハート」のメンバーと。質素ながらもチームの一体感が心地よい。

カンボジアから13歳ソカちゃん、岡山医療センターに。

大手術を受けた13歳のソカちゃんは、2週間後の1月25日に元気に岡山にやってきました。岡山医療センターで甲状腺腫瘍に対する放射性ヨード治療*を受けるためです。(* 放射性ヨード治療とは、放射性同位元素¹³¹Iを用いて、進行した甲状腺がんを治療する方法です。特殊な設備が必要であるため我が国でも全国70か所で行えない高度な治療です。)

カンボジアでの大手術後の良好な回復に、医療チーム

メンバー皆が喜びました。ソカちゃんは、不安げな母親と心優しい女性の通訳、そして「ジャパンハート」の頼もしい看護師さんの4人で訪れました。気だての良さと愛くるしさでソカちゃんは10日間の治療中は病棟の人気者でした。カンボジアとは比較にならない日本の寒い気候、食べ慣れない食事、初めての日本語の障壁、そして放射性ヨード治療のために隔離された個室にも耐えて治療は無事に終わりました。

春の匂いのしはじめた立春の2月4日、ソカちゃんは無事退院しカンボジアに帰国されました。治療の効果を期待するのみです。(次号につづく)



隔離されたR個室での治療が終了しました
ほっとするソカちゃん(中央)



退院日のソカちゃん
こんなに元気になりました。シルクのブルーのスカーフをプレゼント。

Xmasコンサート

■ボランティア室(管理課長) 嘉数 和俊

12月22日(水)のクリスマスコンサートはソプラノ歌手のバルディ・G・睦子さんをお招きし、玄関ホールの煌びやかな大クリスマスツリーの元で開催しました。オペラの名曲ヘンデル「ラルゴ」に始まり、ショルダーニやマルティニ、途中には日本のうたを交えながら、トスティの曲で締めくくりました。マイクを使わない生の声でありながら、ホール全体に響きわたり、共鳴し、全身に響いてくる感覚はこれまでに経験したことの無い感動的なもので、多くの参加者がその歌声に酔いしれました。



くるみ園の子供たち!事務所訪問!

■職員班長 野崎 一弘

普段は雑然とした事務所もこの日ばかりはみんなの笑顔で溢れました。くるみ保育園の子供たちが「勤労感謝の日」にちなんで事務所を訪れ、歌と踊りで日頃の労をねぎらってくれたのです。

1歳から3歳までの約20名の子供たち。まず、2、3歳児が「わらうんだわっ」の踊りを披露。あまりのかわいらしさに、仕事で疲れた心がほぐれていくようでした。続いて、全員で「どんぐりころころ」、「大きな栗の木の下で」を振りつきで大合唱。歌声は事務所を飛び出し、4階フロアまで響きわたりました。その愛らしい声に誘われ、近くにいた看護師さんやドクターまでもが集まってきて、事務所の中は拍手と満面の笑みでいっぱいとなったのです。

歌の後、子供たちから、みんなにプレゼントが配られました。恥ずかしそうに手渡してくれた包の中にはキャンディーとハート型の色紙が入っていました。「いつもありがとう」と書かれていたその色紙は、今も私のデスクマットの中にあります。

すこし肌寒くなってきた秋の日に、一瞬、春の風を運んでくれた子供たちでした。



新病棟建設工事の現況

■経営企画係 杉山 寿

前回のジャーナル記事で、新病棟建設工事について報告してから約3ヶ月が経ちました。

今回は新病棟建設工事の現況を皆さんにご報告したいと思います。

下の写真は工事現場の外観になります。徐々に建物らしくなっ

工事現場



ていますね。作業の進行状況ですが、1月末現在で全工程の約50%が完了しており、現在は4階の躯体工事が進行中です。

下は天井・梁部分(3階)の作業写



真です。この作業後にコンクリートを型枠に流し込んで固めた後、再び上の階の作業に取り掛かります。

内部に関しては1階部分の内装工事に取り掛かったところです。



各階の躯体工事を追いかける形で、建物の内部仕上げ・設備工事を実施していきますので、建物の外枠はそれらしくなっても中はまだまだ未完成、といった感じですね。

簡単ですが、以上で途中報告とさせていただきます。次に報告する時には、建物の外枠は8階まで完成している予定です。皆さんに良い報告が出来るように、関係者全員で精一杯頑張っていきますので、応援宜しくお願いします。

バスケットボールクラブ紹介

■理学療法士 安藤 可織



岡山医療センターバスケットボールサークルです。部員数は20名前後で、月に一度、看護学校体育館で合同練習をしています。パスやシュート、5対5の試合形式での練習などを行っています。顧問である心臓血管外科の岡田先生主催の院内バスケット大会が、毎年7月と12月に催され、大いに盛り上がります。対外試合も年に数回あり、去年は香川まで遠征しました。試合の後の飲み会がまた楽しく、気分転換になります。写真の中で皆が着ているのは、今回皆でデザインを考えて作成したTシャツです。大変賑やかなサークルですので、興味のある方、バスケットをやりたいくうずうずしているあなた!気軽に、安藤までお声かけください!



3年間での 最後の実習を終えて

10期生 長砂 千代、櫻井 法子、中野 優子、後藤 高平
中崎 侑子、坂本 理奈、原田 智美

3年間の臨地実習では多くの患者様と出会い、そしてかけがえない学びや気づきがありました。実習で行き詰ると、自分達に何ができるかとか、何をすべきかとか、どうしても自分達のことを中心に思考が進みがちでした。そんな時に指導者さんより、患者様にも出来る部分があるから、そこに目をむけるよう助言いただきました。常に患者様に目を向け、患者様中心の看護を目指してきたつもりが、いつの間にか見失っていたため看護の視点で患者様に向き合うことができなくなっていたのです。

看護が全ての人間を対象とし、その視点が常に人間性の尊重におかれていることを考えると、患者中心の看護は基本的なことだと思います。大切な気づきを心に留め、翌日からは日々回復されていく患者様に対し、実習に臨む姿勢が、自分達の望む形から患者様が望む形に変わり、多くの事が見えてきました。日常のささやかな会話や表情を交わす中で、今までは見えていなかった患者様の思いや感情が伝わってきました。またリハビリを熱心になさる姿から、退院後の日常生活がより良くなるように日々どうかかわるか考えられるようにもなりました。今

改めて自分達を成長させてくれたのは、患者様だったと確信しています。

看護師国家試験を目前に控え、改めて看護師という職業選択したことを良かったと思いつつ、試験勉強に全力投球しています。実習を終えて、今も多くの方に支えていただいていることに感謝し、自分達をどんな時も受け入れて下さった患者様には心より「ありがとう。」と伝えたいです。



Column

接遇について

フリーアナウンサー
遠藤寛子



前向きなお願い

あるバス停の前を通りかかった時にこんな貼り紙を目にしました。【最近、ゴミがなくなりました。感謝しております。】～「ポイ捨て禁止」とか「ゴミを捨てるな」など否定形のメッセージが多い中で「ゴミがなくなり感謝しています」のなんとも前向きな一言。このメッセージに“なるほど!”と思わずうなずいてしまいました。少し表現を変えるだけで見る人の感じ方もこんなに違うものなのですね。またその言葉から、バス停を皆が気持ち良く使えるように世

話をしてくださっている方の穏やかな表情も思い浮かべることができました。これ、ちょっと使える表現だと思いませんか!?早速みなさんの身近なところでも取り入れてみては…? 「最近、〇〇〇〇。感謝しております!」



PROFILE 平成5年、山陽放送株式会社入社。在局中は夕方ローカルワイドニュース「山陽TVイブニングニュース」や県政・市政などのテレビ番組、スポーツ番組のリポートなどを担当。また、ラジオではお昼のワイド番組をはじめ、数多くの番組を手がける。平成12年に同社を退社後、フリーとして活動中。現在は、山陽放送テレビ・ラジオで朝の定時ニュース担当。またイベントや式典、ウエディングなど、様々なシーンでの司会進行でも活動を続ける他、マナー研修の講師も務める。



鯖の西京焼き

【材料】 2人分

- 鯖 2切れ
- ☆白みそ 80g
- ☆酒 大さじ1
- ☆みりん 小さじ2
- 塩 少々
- はじかみ 2本
- ししとう 4本



【作り方】

- ① さわらは塩少々を振って置いておく。
- ② ☆の材料を合わせておく。
- ③ 1の鯖の水分を拭き取り、2に漬けて半日程度置いておく。
- ④ フライパンで3とししとうを焼いてきれいに盛り付けて出来上がり。



鶏肉のじぶ煮

【材料】 2人分

- カブ 小1個
- ニンジン 1/2本
- れんこん 50g
- 新ごぼう 30g
- 鶏肉 100g
- ほうれん草 1/3束
- 片栗粉 大さじ3
- ☆だし汁 2カップ
- ☆醤油 大さじ1
- ☆みりん 大さじ1
- ☆酒 小さじ2

【作り方】

- ① 材料を切る。ほうれん草は下茹でしておく。
- ② 鶏肉は塩をして片栗粉をまぶしておく。
- ③ ☆の調味料を鍋に入れ、沸騰したら鶏肉を加えます。野菜も固いものから加え全体に火が通ったら盛り付け完成です。



1人前
エネルギー:200Kcal
たんぱく質:25.1g
塩分:3.6g



まだ寒いですが、根菜類のじぶ煮はとろみがあり体が温まります!
早春の鯖と菜の花を取入れて春らしく♪

菜の花のからし和え



【材料】 2人分

- 菜の花 1束
- 錦糸卵 適量
- ☆だし汁 大さじ2
- ☆醤油 小さじ1
- ☆からし 適量

【作り方】

- ① 菜の花を茹でる。冷水にとり水気を絞る。
- ② ボールに☆の調味料を混ぜ合わせておき、そこに1の菜の花を入れ器に盛り付け出来上がり。



リソースナース室通信

Vol.8

皆さん、こんなことをやってほしい! というリクエストをお待ちしています!



チーム医療の重要性を叫ばれる中、領域が違うリソースナース同士でのコラボレーションを実施しています。今回は小児看護専門看護師とのコラボレーションについて2例紹介します。

まず1例目。最も領域の近い、新生児集中ケア認定看護師と、5B(新生児センター)・6B(小児病棟)のラウンドを始めました。5Bから6Bへ子どもの情報が伝わり、転棟がスムーズになり、また、6Bへ転棟後も、5Bでのケア方法が継続され、家族の不安を軽減できることを目指しています。

そして2例目。外来で集中ケア認定看護師とともに、在宅人工呼吸管理をしている子どもへの「カフアシスト」という新しい機械の導入についてサポートしました。これからも、リソースナースの活躍にご期待ください!!

三宅医院

院長 三宅 馨



当施設は、産科を中心とし、徹底した患者重視の医療づくりを行っている有床診療所です。

「健康としあわせづくりに限りなく奉仕する」を医療理念に、赤ちゃんからお年寄りまでの継続医療、チーム医療そして心身両面からの健康支援を行っています。

1993年に母と子のハロー歯科を開設し、妊娠中から口腔のケアを重視した医科と歯科の継続的医療連携を行い、2000年に岡山大福クリニックを開設し生活習慣病予防とトータルヘルスケアへのサポートを重視し、代替補完医療を取り入れた医療も行っています。また、2007年には増築し、有床診療所として婦人科腫瘍と腹腔鏡手術、乳癌手術と化学療法及びレディースドッグに特化し、機能強化しています。グループ全体で、一生涯を通じて女性の健康をサポートすることを目指しています。



三宅医院:産科、婦人科、小児科、形成外科、生殖医療センター(不妊治療)
 医療法人緑風会 ハロー歯科:一般歯科、小児歯科、矯正歯科
 医療法人緑風会 岡山大福クリニック:内科、眼科、婦人科、乳腺外科

住 所 〒701-0204
 岡山市南区大福369-8
 電 話 086-282-5100
 診療科目 内科、小児科、産婦人科、麻酔科
 形成外科、不妊治療

診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土	日
	9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	●
	16:00～18:00	●	●	●	●	●	●	●
形成外科	9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	
	15:00～18:00	●	●	●		●	●	
不妊治療	10:00～12:00	●	●	●	●	●	●	9:00～12:00
	15:00～18:00	●	●	15:00～17:00 (完全予約制)	●	15:00～17:00 (完全予約制)	●	
小児科	9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	
	16:00～18:00	●	●	●	●	●	●	

健康 Healthy ワンポイント One-point lecture レクチャー

男性にも更年期障害が？



「最近どうも疲れやすい」、「集中力が持続せず、仕事の能率が落ちた」、「やる気が起こらない」、「眠れない」などの症状がありませんか。中高年の男性の場合は、男性更年期障害の可能性がります。

更年期障害と言えば女性を思い浮かべます。閉経をはさんだ約10年間に、ほてり(ホットフラッシュ)、発汗、頭痛、めまい、動機などの症状が出てきます。これは、卵巣から分泌される女性ホルモン(エストロゲン)の量が減少することにより起こります。

男性の場合は、女性のような急激な性ホルモン(男性では、テストステロン)量の減少がありませんので、ある時期に急激に症状が出てくることはありません。症状が徐々にあらわれて、進行しますから、病気の存在もはっきりと認識できません。しかし、テストステロンの量の減少により、様々な症状が起こることがわかってきました。これを男性更年期障害と言い、PADAM(パダム)と呼ばれることもあります。

テストステロンは思春期以降に精巣(睾丸)からの分泌が顕著

に増加します。これにより、第二性徴が引き起こされます。筋肉増大、毛深さ、精力、あるいは精子の産生に関わります。また、テストステロンは、肉体のみでなく、精神にも作用が及んでおり、積極的な(男性的な)性格に関与しています。

テストステロンの量は、30歳台から徐々に減少しはじめ、年に1～2%の割合で減少します。ただし、血中テストステロン値は個人差が大きく、70歳でも30歳台の平均値と同じ値の方もおられます。テストステロンの減少により、様々な症状が起こります。ほてり、発汗、めまい、頭痛、耳鳴り、肩こりなど、女性の更年期障害によく見られる症状の他に、性機能障害として、性欲低下や勃起障害(ED)もみられます。また、情緒不安定、不安感やイライラ、不眠、抑うつ気分など精神的な症状や、疲労感、集中力の低下、記憶力の低下なども見られます。



診断は、問診や診察で行いますが、血中テストステロン値の低下が参考になります。

最近では、男性ホルモン補充療法なども行われており、この病気を克服された方もたくさんおられます。



お荷物ドクター の ひとりごと



うまい話

私はこれまで病院勤めの雇われ医者であった。大学の同級生は次々開業し一国一城の主になったり、自分で病院を建ててとても羽振りのいいのも居る。わたしは甲斐性が無いものだから何時までも使われる身で、上司の顔色を伺わなければならない。もう一生このままかなとあきらめていた。ところがわたしも運が開けたようである。なんと私に新しい病院をプレゼントしようという人が現れたのである。いま私は「私の病院」の構想を練るのに余念がない。

そんな気前のいい話があるものか、なにか裏があるに違いないと思われるでしょう。でもその人はけっして怪しい人ではなく、国民健康保険証を持つれっきとした紳士であって、しかも、私の年来の患者さんである。職業ははっきりとは答えないが実業家のように、商取引や金融のことにとても詳しく、診察中にもよく取引先から電話がかかってくる。彼の病気はというと糖尿病である。糖尿病は治す病気というよりまく付き合っただけの類の病気で、日頃の食養生が第一なのだ。しかし、いろいろな会合や宴会の付き合いが多くどうしても断れず、つい食べ過ぎてしまうのだそうだ。「それではダメだ。」と指導するのが良いのだが、同情して、つい「そうだろう、そうだろう。」と言ってしまふ。だから糖尿病のコントロール状態はあまり良くない。

コレステロールがたまって心臓も腎臓も問題がある。加えて神経がやられて手足はしびれるし、それに、夜のあの業務もうまいかなくなっている。糖尿病専門医に何回も紹介したが、あれもダメこれもダメ、毎日3回4回注射しろと言われて守りきれずまたしては私のところに戻ってくる。私は糖尿病にはあまり自信がないから厳しい指導をしない、それをよいことに私の所に居着いて3年になる。今日も大将の大きなダミ声外来にひびく。

「先生、俺は先生を信用してるけど、ひょっとしてもぐりじゃないんだろうな。俺のカルテの病名だかな、頭痛、肩こり、吹き出物、足のしびれ、便秘、……これ病名か？」

温泉の効能書きみたいだぞ。おれの病気だ。もっとかっこよく〇〇〇病とか〇〇〇症とかつかねえのか。ほ

んとは病気の名前を知らないんじゃないんだろうな。〇〇〇〇〇〇症候群てのがハイカラで俺は好きだ。先生、なんかねえか。」

彼のカルテの病名は数多くて余分に貼り足して書いてある。ほんとは「糖尿病」と初めに書いてあるのだが他にいっぱい書いてあるので目に付かない。糖尿病は万病の元、とどんといろいろな症状が出てくるのだ。だから病名にすると「糖尿コントロール不良症候群」とでも言おうか。でもこの病名大将が気に入ってくれるだろうか。

「先生、俺はこれからでっけえ仕事をするんだ。外食チェーンだ。岡山から初めて、とどん増やして5年後にや全国200店だ。何だと思っ?びっくりするんじゃないぞ、ラーメンでも牛丼でもねえぞ。俺は二番煎じは嫌いだ。何だと思っ?ダチョウの卵と肉で親子丼をつくるんだよ。アフリカで走ってるやつだ。喰ったことあるか?これがいけるんだ、先生。絶対当る。間違いねえ。いきな名前も付けた。「いでん井」、どうだ、ぴったりだろう。ダチョウは天然物は手に入らないから、山奥で養殖するんだ。もう、養殖牧場の目途もつけた。店員は若いきれいな娘にするんだ。で、ミニスカートの制服着せて、入口に紅いジュータンしいて。先生もここじゃあ頭打ちだぞ。うちで勤めねえか。店長をするか?それともダチョウを飼うか?」

私はどちらかというと鳥類よりミニスカートのほうが好きなので、「できれば店長のほうで」と咽まで出かけたが、私は人類のことは多少知っているが鳥類については皆目不案内であるので、ちょっと惜しかったが店長は断った。

「先生、おれはたっぷり金は持ってるが銀行に寝かしたままだ。もったいないから投資先を探しているんだ。で、どうだい、先生、病院やらないか。先生が院長で自由にやりゃいい。おれは口出しはしないよ。500床ぐらいな総合病院がいいな。そうだな、ナースは若いきれいなのを揃えて、白衣はミニスカートにして、玄関に紅いジュータンを敷こう。ネオンの看板がいるぞ。客引きを雇ってティッシュをいっぱい配ろう。」

ちょっと違うようにも思うが、まあいいか。一度院長をしてみたかったので、店長よりもうれしい。

そして一年たった。その後大将に聞いてみるが。「もうちょっとだ。」「うん、まあ、その。」と、あの時の勢いがない。悪いファンに手を出したのか、奥さんあたりでマッタがかかったのか。

夢だったのだ。私はこの病院で地道に患者さんを診るさだめのようだ。

お荷物ドクター

地域医療研修室

セミナー・講演会 (4月・5月)

会場: 当院4階大研修室
時間: 19:30~20:30

日程	種別	演者
平成23年 4月19日(火)	第108回初期治療セミナー 日常診療における腎臓病の見方	腎臓内科 太田 康介
平成23年 5月17日(火)	第109回初期治療セミナー 嚥下リハビリの最新情報	リハビリテーション科 外部講師予定

第4回がん市民公開講座 「ここまで進んだ大腸がんの診断と治療」

消化器科医長 山下 晴弘

例年大学入試センター試験のある日は大荒れの天気になるとわかっていながら、わざわざ1/15に岡山国際交流センター国際会議場において、第4回がん市民公開講座が開催されました。予想通り寒風吹きすさぶ中、それでも100名を超える多数の方々にご参集いただきました。今回のテーマは近年増加の一途をたどっている大腸がんです。

まずは当院の内視鏡技師 難波澄江より「快適な大腸内視鏡検査」。体調に合わせて事前に医師に相談することや前日の食事内容の工夫、そして二酸化炭素を用いた内視鏡検査など当院の内視鏡室のスタッフが取り組んでいる検査が快適になる内容が盛り込まれていて好評でした。

続いて当院消化器科医師 古立真一より「あなたのからだに合わせた大腸がん治療を考えよう」。発見された時期別の治療方法の選択や個人の遺伝子多型による抗がん剤の治療効果

の違いなどを最新のデータを交えながらわかりやすく説明してくれました。

会場からの質問も多数いただき活発な討論が展開され非常に有意義な公開講座であったと思います。



編集後記

お待たせしました。今号もようやく完成しました。異常気象と新燃岳噴火、鳥インフルエンザ、タイガーマスク現象、中東に広がる反政府運動の嵐、大相撲八百長騒動、民主党政権内紛……よくもまあこれだけニュースが続くというものです。これほど世間が賑やかなのに、岡山のなんと平穏なことでしょう!先日、ファジアーノ岡山の木村社長の講演を聞きました。岡山県がいかにアイデンティティに乏しく、県民の郷土愛が希薄かということ、それを何とかひっくり返して岡山を世界に認めさせたいんだという熱いトークに、私の心も強く揺さぶられました。私はもともと信州人ですが、今はもうすっかり岡山人。平穏で住みやすい岡山に多すぎるのはクールな議論、足りないのはハングリーで一途な郷土愛と、天に向かって屹立する信州の山々のような武骨な激しさかもしれません。『人にやさしい病院』も郷土愛から。今年の私のテーマは『岡山愛』。みんなで熱く盛り上がりましょう!

(大森 記)